令和８年度　住吉中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

（１）大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

（２）市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

（３）学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

（４）生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

１　全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）		平均IRTスコア 英語4技能 （）内は3技能（参考）
			国語	数学	国語	数学	
３　年	学校	100	61	57	4.6	11.6	531（530）
	大阪市	－	60	55	5.4	11.4	499（499）
4月23日	全国	－	63.9	57.0	4.9	10.4	499（499）

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT＝Computer Based Testing）で実施。
※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

２　中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数（人）	平均点（点）					平均無解答率（%）				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
３　年	学校	99	58.4	50.8	44.6	50.0	55.6	8.5	4.7	15.5	5.7	6.0
	大阪市	－										
9月2日	大阪府	－	58.5	48.3	43.4	52.8	51.1	7.6	4.7	16.7	4.5	7.8

※３年生の理科は　B問題を選択

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

＜国語＞
平均正答率を全国と比較すると、本校は61％であり、全国平均（63.9％）を2.9ポイント下回った。一方で、大阪市平均（60％）は1.0ポイント上回った。国語科においては、基礎的・基本的な学力の定着は一定見られるものの、自分の考えを整理し、根拠を明確にしながら文章で表現する力や、文章を多面的に読み取り考えを深める力の育成が課題である。今後も、考えを形成し表現する学習活動を充実させるとともに、総合的読解力の向上をめざした授業改善に取り組む必要がある。

＜数学＞
平均正答率を全国と比較すると、本校は57％であり、全国平均と同率であった。また、大阪市平均（55％）を2.0ポイント上回った。数学的な基礎・基本の定着が概ね図られていると考えられる。今後も継続して基礎学力の定着を図るとともに、個に応じた指導を充実させ、平均正答率が低い生徒層の底上げに努める必要がある。

＜英語＞
平均スコアを全国及び大阪市と比較すると、本校は531であり、全国平均・大阪市平均（ともに499）を32ポイント上回った。日頃の授業における言語活動の充実や、英語を活用して表現する取組の成果が表れていると考えられる。今後も、聞く・読む・話す・書くの4技能をバランスよく育成し、自ら考えを英語で発信する力の向上を図っていきたい。

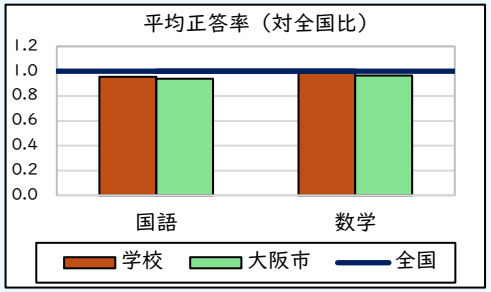
今後に向けて

今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、数学では全国平均と同程度、英語では全国平均を大きく上回るなど、基礎的・基本的な学力が概ね定着していることがうかがえる。一方、国語においては全国平均との差が見られることから、文章を正確に読み取り、自分の考えを論理的に表現する力の育成が課題である。
今後も、誰一人取り残すことのないきめ細かな指導に努めるとともに、各教科において学習活動の振り返りを充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現をめざしていく。また、国語科を中心に総合的読解力の向上を図るとともに、探究的な学習や教科横断的な取組を通して、情報を整理・分析し、自らの考えを表現する力の育成を推進していく。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

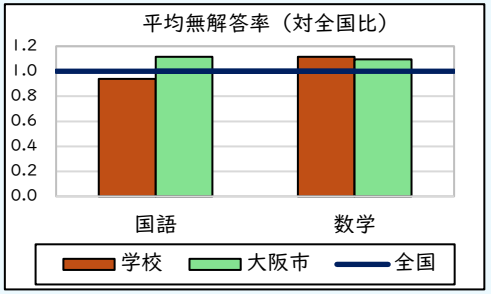
平均正答率（%）

	国語	数学
学校	61	57
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



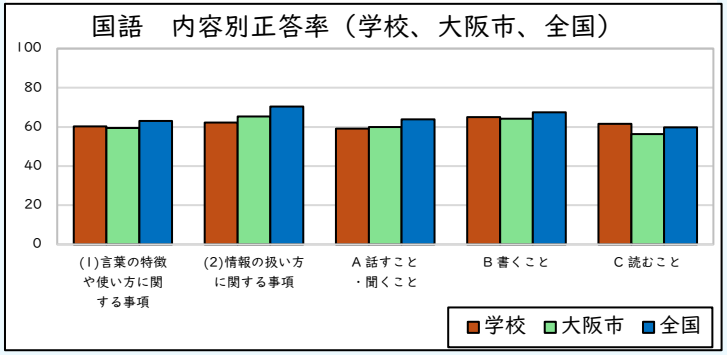
平均無解答率（%）

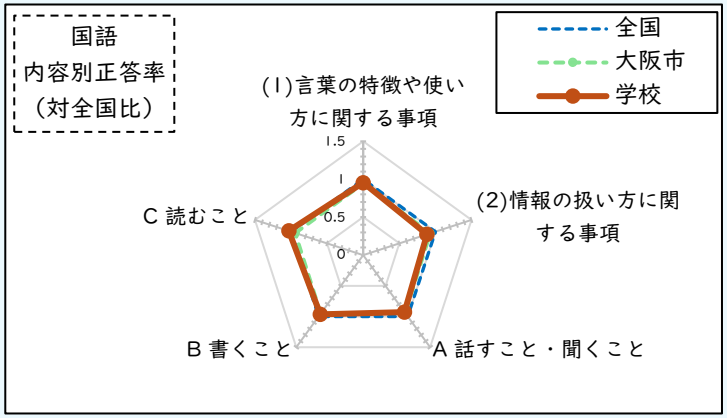
	国語	数学
学校	4.6	11.6
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



【国語】内容別正答率

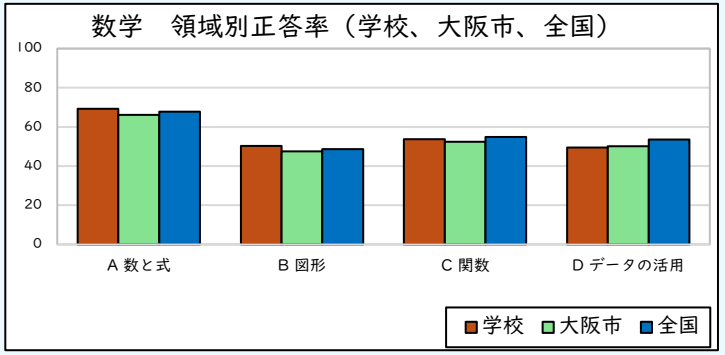
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	60.2	59.5	63.0
(2)情報の扱い方に関する事項	1	62.2	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	59.2	59.9	63.9
B 書くこと	3	65.0	64.2	67.4
C 読むこと	3	61.6	56.3	59.7

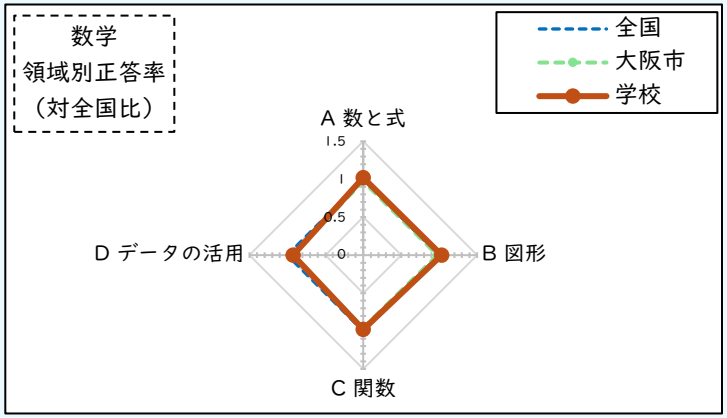




【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と式	5	69.2	66.1	67.8
B 図形	4	50.3	47.6	48.7
C 関数	3	53.7	52.5	54.8
D データの活用	4	49.5	50.2	53.5

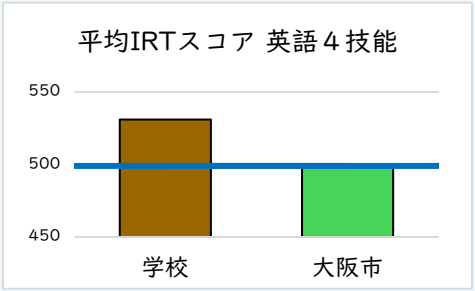




令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要（英語）

英語　平均IRTスコア

学校	531（530）
大阪市	499（499）
全国	499（499）



※４技能の平均IRTスコアです

※（　）内は３技能の平均IRTスコアです

【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和８年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

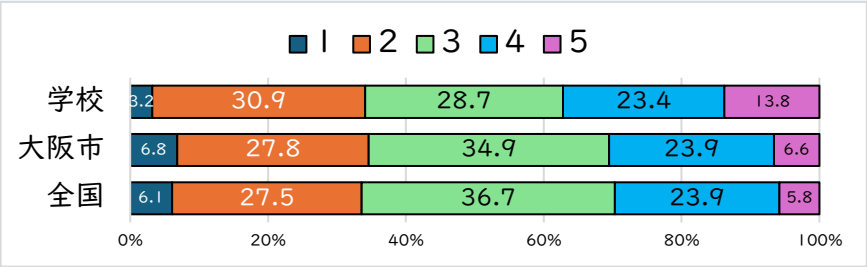
IRTスコアを１～５の５段階に区切ったものです。３を基準のバンドとし、５が最も高いバンドとなります。

※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

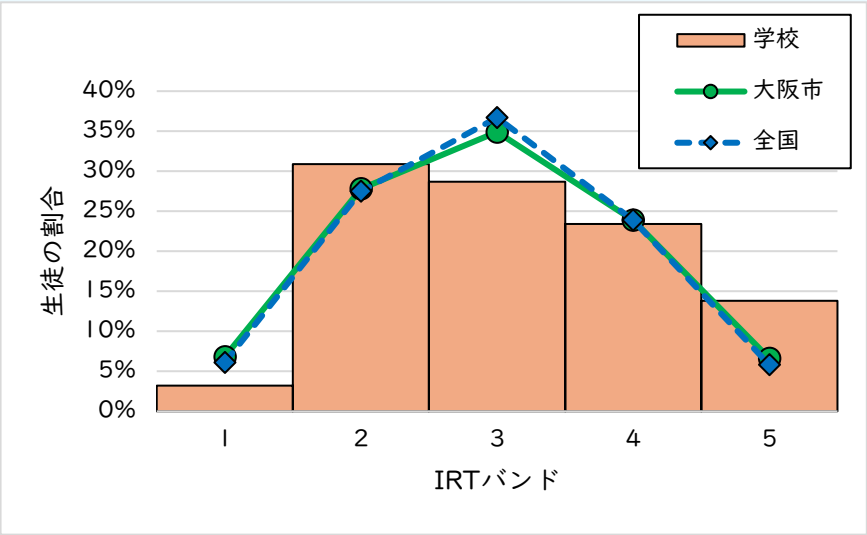
	IRTバンド分布比較（４技能）				
	１	２	３	４	５
学校	3.2	30.9	28.7	23.4	13.8
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※４技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（４技能）



IRTバンド分布グラフ（４技能）

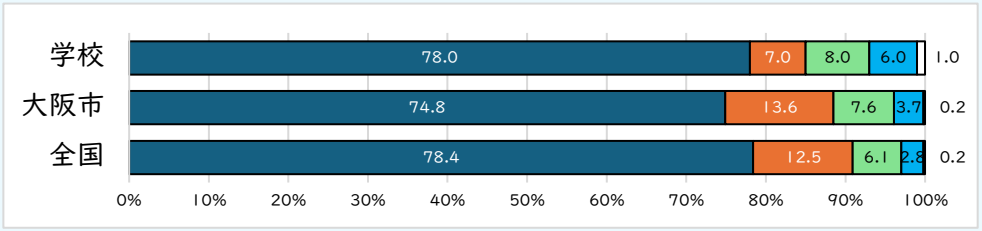


生徒質問調査より（１）

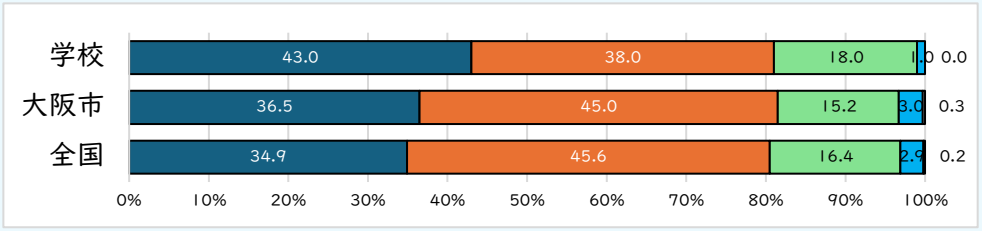
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号　　質問事項

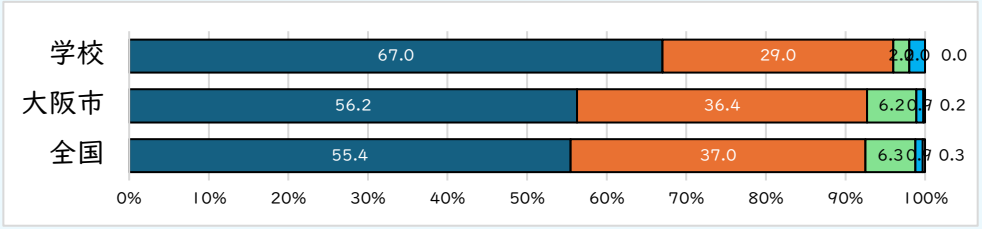
（１）	朝食を毎日食べていますか
（２）	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
（３）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
（８）	自分には、よいところがあると思いますか
（９）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



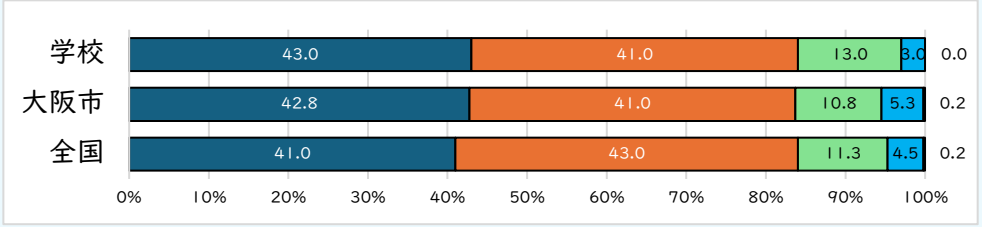
1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない



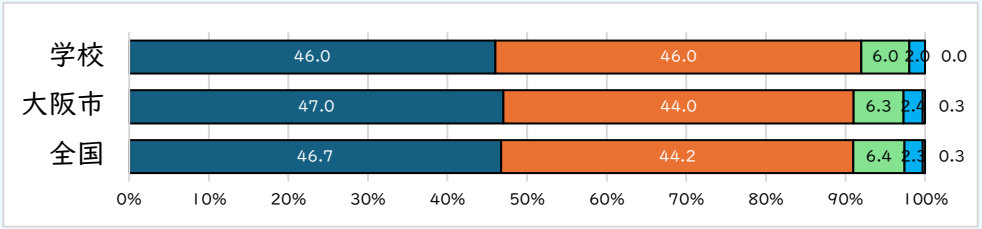
1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない



1 している
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

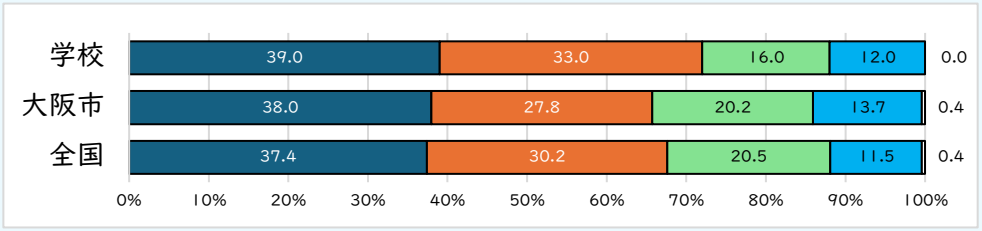


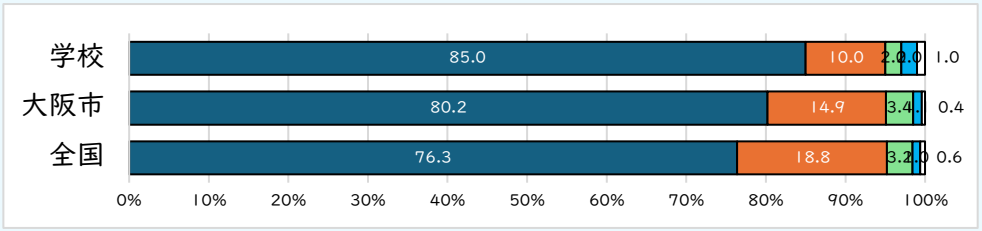
1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

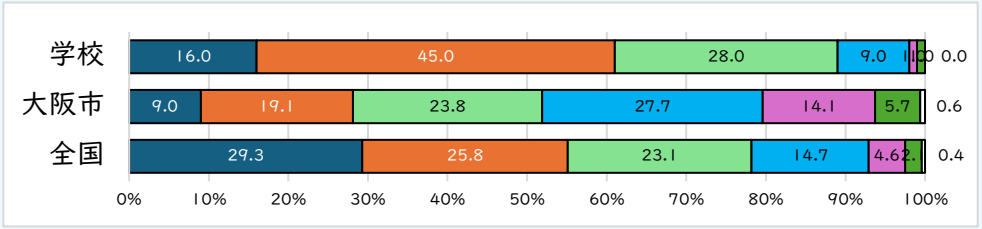
生徒質問調査より（２）

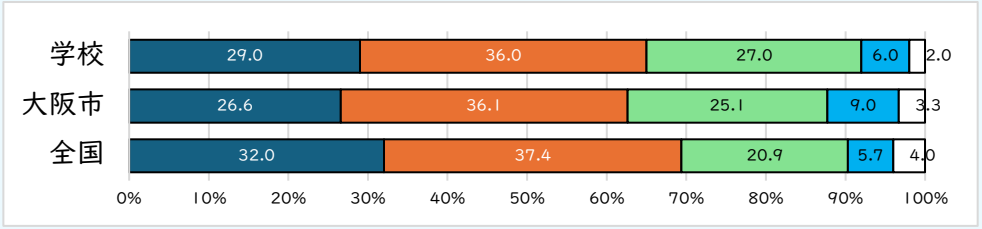
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

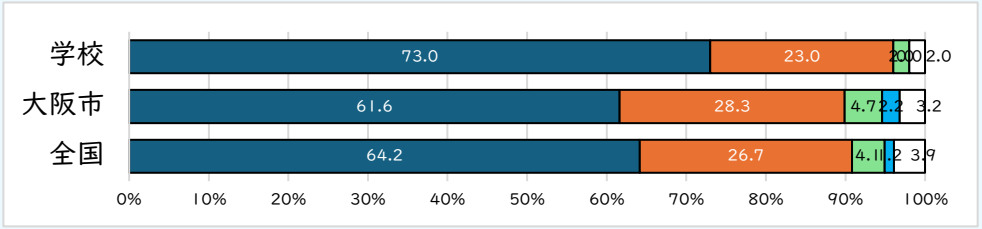
質問番号	質問事項
（１０）	将来の夢や目標を持っていますか
（１２）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
（３５）	１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
（３６－３）	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか
（３６－２）	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか







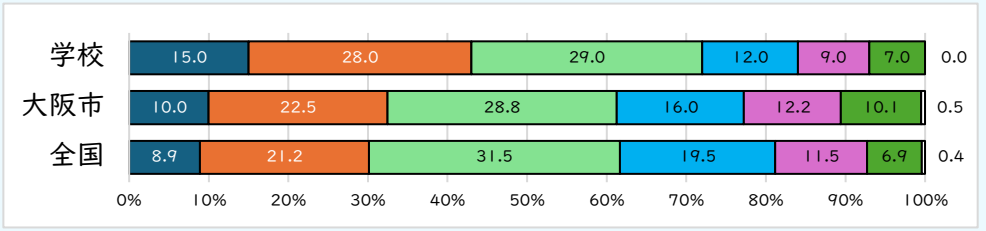




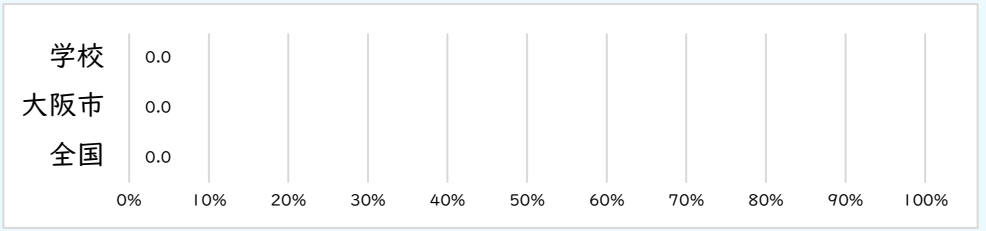
生徒質問調査より（３）

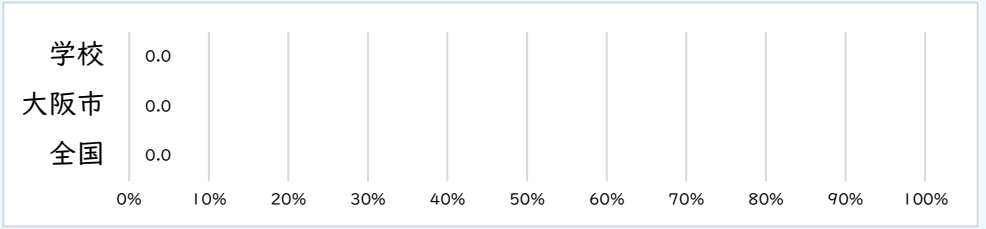
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

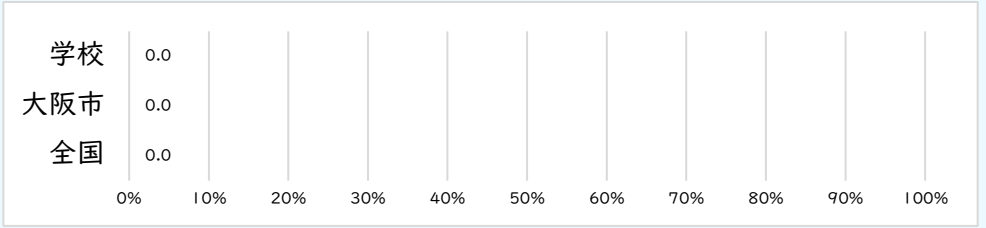
質問番号	質問事項
（２３）	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

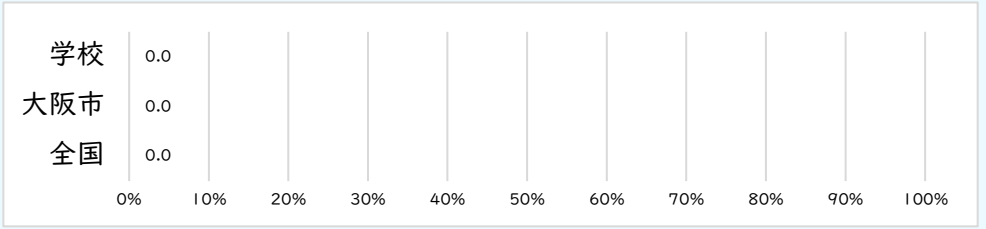


1 ３時間以上
2 ２時間以上、３時間より少ない
3 １時間以上、２時間より少ない
4 ３０分以上、１時間より少ない
5 ３０分より少ない
6 全くしない







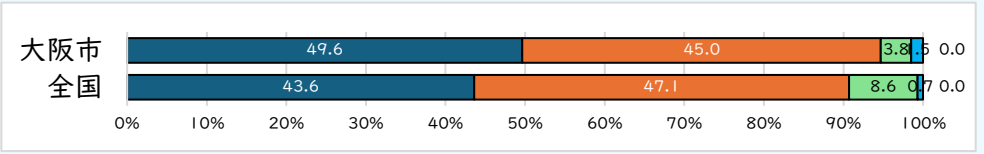


学校質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

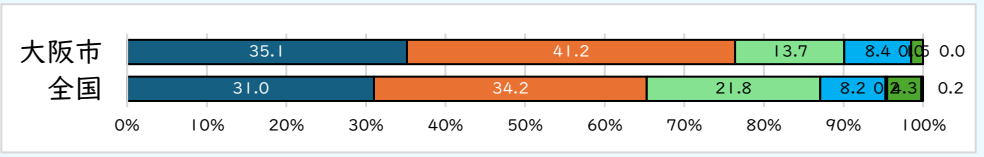
質問番号	質問事項
（8）	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか
（14）	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか
（17）	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか
（28）	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか
（66）	生徒が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのICT機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか

【学校の回答】　1　そう思う



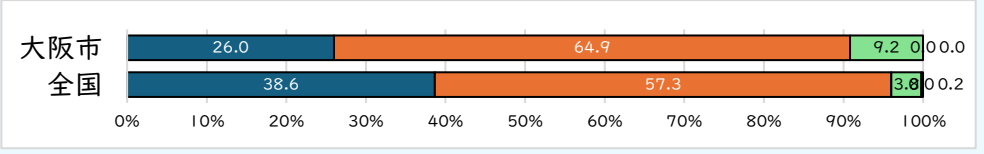
1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

【学校の回答】　2　月数回程度行った



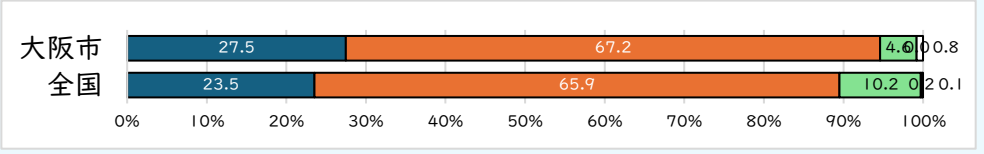
1 週１回程度、または、それ以上行った
2 月数回程度行った
3 学期に数回程度行った
4 年数回程度行った
5 行わなかった
6 特に問題を抱えていなかった

【学校の回答】　2　どちらかといえば、している



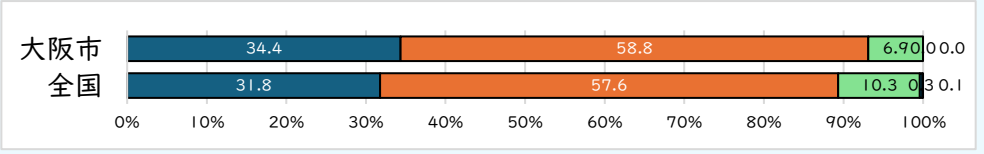
1 よくしている
2 どちらかといえば、している
3 あまりしていない
4 全くしていない

【学校の回答】　1　そう思う



1 そう思う
2 どちらかといえば、そう思う
3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない

【学校の回答】　2　どちらかといえば、当てはまる



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない